

三条別院のご案内

三条別院に想う

「一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候ところへまいるべし」と赤尾の道宗さんが申したそうです。(蓮如上人御一代記聞書)「ちかきところ、御開山様の御座候」とは、今で言う越中の井波別院でありましょう。ひと月に一度は、近いところの親鸞聖人の御影のもとへ参らずにはおれないはずだ、そうなるにちがいないということでしょう。

ふと思い返してみた。私は親鸞さまの御座候別院に参っているのだろうか。教務所に会議には行くけれど、親鸞さまのところ行く感覚はほとんどありません。おかしい話だと思えます。

三条別院の報恩講に、初めてお参りしたのは、六、七年前だったと思います。「出仕の坊さんが少ない」それが第一印象でした。しばらく北海道教区にご縁があったこともあり、札幌、函館、江差、旭川、帯広、根室の道内六別院の報恩講にお参りするご縁をいただいたことがあります。遠近各地より多くの参勤があり、別院で寝泊まりして参勤される方も多くいます。比べることは愚かしいこ

ととは思いますが、寂しい気がします。が、三条別院は多くの「門徒、僧侶が報恩講の運営に当たるのは素晴らしいこと」だと思います。

先日、ある住職と話をしていたら、教区の御遠忌法要の話になりました。

その住職が言うには、「教区の御遠忌は、三条別院を会場に、各組ごとに出仕、お勤めをして、団参を行う。今日は、この組。明日は、あの組。というようにして二週間、三週間やったらいいさ。当たってない組は、自由参拜。いいぞ。」と。私の頭には出来ない発想だったので、新鮮でした。でも大変そうである。しかし、寺に居れば、ご門徒に「寺に参りなさい」と勧めているのだから、五十年に一回くらい、組をあげて別院にお参りしてもよいのではと思います。

関東のご門徒が「身命をかえりみず」と親鸞さまを訪ねた「御ころざし」。どこにでも容易に行ける時代になった現代に「御ころざし」は、私にもはたらいっているのだろうか。

(第二十三組 明正寺 渡邊 学 氏)

〇次回の「三条別院に想う」は、

鷺尾 幸雄 (三条別院 輪書) が

執筆します

■別院奉仕研修会が開催されました。

五月三十日(月)、教区推進員・別院有志の会による別院奉仕研修が行われました。あいにくの雨により、計画していた野外清掃が中止となり、本堂を中心とする屋内の清掃となりましたが、推進員・有志の会を含めて、五十九名もの参加者が集まりました。また、推進員連絡協議会会長を中心に、数名が雨天の合間をぬって本堂周りの草むしりをしてくださいました。

「柱にこんなに画びょうが刺さっていた」「その隅っこにこんな埃がある」「この柱はこんなに雑巾が黒くなる」など、いろいろな言葉が飛び交いました。巻頭の「別院に想う」のコーナーで、有縁の方々に交代で執筆していただいておりますが、奉仕団の一人ひとりが、別院に対して強い想いを持って下さっていることが、忙しく働く背中から伝わってきます。それは肯定的な想いかもしれないし、歯がゆい想いであるかもしれせん。

今回は全員とお話することは難しかったけれども、一人ひとりの声に耳を傾けていくことが別院職員としての我々の仕事なのでしょう。職員をみたら、いつでも声をかけてください。もちろん、こちらからも声をかけます。丸一日の奉仕団、本堂にお疲れさまでした。



■三条市仏教会 花まつり開催

五月二十一日(土)、三条市仏教会主催の花まつりが三条別院にて行なわれ、松葉幼稚園、みのり幼稚園、宝塔院幼稚園の園児たちによる稚児行列が行なわれました。「お釈迦様が生まれる時、母親である麻耶夫人が、白象がお腹に宿る夢を見た」という伝説にちなみ、白象を稚児たちが取り囲み、楽しい音楽とともに街中を練り歩きます。暖かい日差しの中、お練りは本町通りから本寺小路に進み、別院境内に戻り、そして本堂で仏様に甘茶を灌ぐ灌仏式が行なわれました。日常生活で子ども達が仏教に触れる機会はだんだん少なくなっていますが、華やかな衣裳に包まれて別院で花祭りを行なった記憶が残ったならばうれしいことです。



■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様の「ご参詣をお待ち申し上げております。」

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【六月二十八日(火)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

鳴澤 宏誓 氏(第十九組 長福寺)

◇今後の講師一覧

- 七月 藤井 信彰 氏(第十四組 長楽寺)
- 八月 村山 まみ 氏(眞空学院第一期卒業生)
- 九月 井上 知法 氏(第十三組 願性寺)
- 十月 草間 朋哉 氏(第十二組 勝覺寺)
- 十一月 竹内 淳一 氏(三条教務所 主事)
- 十二月 関根 正隆 氏(第二組 長徳寺)

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階事務所に「ごさいます」宿泊者帳に記帳していただき、シーツクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただけますようお願い致します。

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私

ちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇うことを通じて、ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、「要望等」ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、冥加金としまして左記のとおり頂きます。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円
- ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)
 - ・朝食代 五〇〇円
 - ・昼食代 一、〇〇〇円程度
 - ・夕食代 一、三〇〇円程度

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各「門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

「門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となる」ご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後などにご相談させていただきます。